

土地および建物

土地	175,765 ㎡
ほ場	89,829 ㎡
放牧地その他	85,936 ㎡
建物	76棟 14,861 ㎡

家畜頭羽数(生後60日以上)

令和7年4月1日現在

畜種	品種	頭数
乳牛	ホルスタイン	42頭
肉牛	黒毛和種	41頭
豚	ランドレース 大ヨークシャー デュロック 等	198頭
鶏	ジュリアライト ボリスブラウン 岡崎おうはん シャモ	1,856羽



家畜用浄化槽



搾乳施設（ミルクングパーラー）



細断型ロールペーラ

交通案内

- 小田急小田原線、相鉄線、JR相模線、海老名駅下車
東口から神奈中バス（長後駅西口行）で約20分「畜産研究所」下車
- 小田急江ノ島線長後駅下車
西口から神奈中バス（海老名駅東口行）で約20分「畜産研究所」下車



〒243-0417 海老名市本郷3750
電話(046)238-4056 ファクシミリ(046)238-8634
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/g8f/index.html>



神奈川県

畜産技術センター

Kanagawa Prefectural Livestock Industry Technology Center

かながわの畜産を支える技術開発と普及



サイエンスサマー「1日獣医師体験」



施設公開「ちょこっと体験ツアー」



農業高校家畜審査競技会

～畜産への理解を推進する活動をしています～

試験研究

県民に高品質な畜産物を安定的に提供するとともに、都市と調和した畜産を推進する試験研究を行っています

- データ駆動型畜産の実践による生産性の高い畜産経営の実現に取り組んでいます。
 - 1 データを活用して生産性向上を図るための技術開発
- 県民ニーズに応える魅力ある畜産物の提供に取り組んでいます。
 - 2 県産ブランド畜産物の生産を推進するための技術開発
 - 3 安全・安心な畜産物を提供するための技術開発
- 環境と調和した畜産経営の実現と脱炭素社会への貢献に取り組んでいます。
 - 4 環境と調和した畜産経営のための技術開発
 - 5 脱炭素社会に貢献するための技術開発



スマート技術を取り入れた浄化槽のばっ気制御技術の開発



未経産牛のOPUによる牛群改良方法の開発



採卵鶏へのエコフィード給与による飼料費低減方法の検討



畜産経営における温室効果ガス削減方法の検討



夏季の家畜の暑熱ストレスを低減するための技術開発



国産濃厚飼料増産のための子実トウモロコシの生産方法の検討

普及指導

畜産農家に対する畜産技術支援を軸とした高度技術の普及指導、畜産の担い手の育成・確保を行っています

- 畜産の担い手の育成や経営発展を目指す畜産経営を支援しています。
- 県民ニーズに応じた高品質で安全・安心な畜産物の生産・販売の取組を支援しています。
- 子牛の哺乳ロボットや畜舎の監視カメラ等IoT、ICTを活用したスマート畜産の取組を支援しています。
- 気候変動、畜産環境対策、社会情勢の変化に対応した畜産経営の取組を支援しています。
- 市町村等と協力して地域畜産の振興を図るための取組を支援しています。



担い手を対象とした先進事例視察研修



哺乳ロボットで哺乳した牛の発育調査



飼料用トウモロコシの栽培技術講習会

組織

所長

副所長

管理課

4名（人事、庶務、予算、財産管理）

企画指導部長

企画研究課

研究担当 12名

現業職員等 34名

企画調整グループ

養鶏・経営グループ

環境グループ

大家畜グループ

養豚グループ

酪農肉牛グループ

養豚養鶏グループ

（試験研究の企画調整、情報活用、飼料の収去・分析）

（鶏の飼養管理技術・改良増殖、畜産経営管理・流通技術）

（家畜ふん尿処理・利用、環境保全技術）

（牛の飼養管理・繁殖技術、飼料作物の栽培技術）

（豚の飼養管理技術、改良増殖）

（牛に関する技術指導、情報提供、相談）

（豚・鶏に関する技術指導、情報提供、相談）

普及指導課

普及指導担当9名

沿革

明治40年（1907）農事試験場に畜産科創設

大正 9年（1920）種畜場を設置（横浜市保土ヶ谷町）

昭和18年（1943）現在地に移転（高座郡有馬村本郷）

昭和36年（1961）畜産試験場に改称

平成 7年（1995）畜産研究所に改称

平成17年（2005）畜産技術センターに改称（普及指導部の新設）

平成22年（2010）農業技術センター畜産技術所に改称

平成26年（2014）畜産技術センターに改称